

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
グローバル展開プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）
評価用研究成果報告書

課題		グローバル化に対応した人文学・社会科学教育の国際比較			
研究テーマ名		国民国家型の大学歴史教育をグローバル化時代に適応させる方法に関する国際比較			
研究代表者	所属機関	国立大学法人大阪大学			
	部局	文学研究科			
	役職	教授	氏名	堤 一昭	
委託研究費		単位：千円			
平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 令和元年度		
1,430	10,348	6,240	5,382		

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

■ **【研究目的】** 国民国家中心の歴史学の枠組みによる教育・研究が、グローバル化の時代に限界を迎えているという、日本を含めた主として東アジア諸国に共通の問題にどう対処するかという問題意識のもと、1) 歴史教育改革の比較研究、自国史と世界史の関係、授業方法などの国際比較をおこない、2) 授業モデルや海外発信体制の開発・試行を通してグローバル化時代にふさわしい歴史学の発展をはかることを目的とした。

■ **【研究内容】** 1) **歴史教育改革の比較研究**：カリキュラム・科目内容面、ディプロマ・ポリシーや教員養成との関係、英語化や多言語化を含む教授方法の脱一國主義化、若手育成や授業研究・評価の方法を、文献、インターネットでの調査、協力大学等への訪問調査を行った。

2) **授業モデルの開発・試行**：大阪大学以外に協力大学との相互乗り入れも含めて、日本史と世界史を連結・統合した講義・演習、および日本史やアジア史を含む講義・演習の英語化・多言語化を試行する。

■ **【研究成果と波及効果】** 現時点までに、平成31(2019)年1月のAAWH（アジア世界史学会）第4回大会はじめ、国内外の学会や雑誌での発表を行ったほか、日本の学術のグローバル化を企図して、本計画3言語版（日本語、英語、中国語）ウェブサイトを通じた発信を恒常的にこなってきた。それらは、訪問調査の対象の大学等、また主催した研究会に招いた海外の研究者・大学に直接の刺激を直接与えたと考えられる。

また、授業モデルの開発・国内外での試行においては、将来の世代での日本史のグローバル化を養成する観点から若手研究者を積極的に参画させた。若手研究者の実践の経験としても、国際的にも波及効果を与えてきたと考えられ、将来的にも発展が期待しうる。

なお、令和1(2019)年8月には、最終シンポジウム **Globalizing University History Education: Diversity, Trans-borders and Intersectionality** (<http://history-education.labos.ac/ja/page/p20.html>) を開催する。そして、その成果を可能な限り多言語で公表することにより、国際的な波及効果を企図している。